

---

---

TOKYO FM「SCHOOL OF LOCK!」と「幻冬舎」共催企画  
10代限定文学新人賞『蒼き賞』グランプリ受賞作品  
16歳ベニ著「孤独星」書籍化！

---

---

“未来のカギを握るラジオの中の学校”がコンセプトの番組「SCHOOL OF LOCK!」(毎週月～木曜22:00～23:55、金曜22:00～22:55、23:30～23:55 / TOKYO FMほかJFN系38局ネット)と、“未来のカギを描くロックな出版社”「幻冬舎」とのコラボレーションにより創設した10代限定の文学新人賞『蒼き賞』の第1回グランプリ 16歳ベニ著「孤独星」が1月23日(金)、ついに書籍化！準グランプリ『陽のあたる場所』18歳・海央著と、審査員特別賞『×(かける)』18歳・柚木椅子著も併録！

この文学賞「蒼き賞」では、作品のあらすじと、第1話のみの、“未完成作品での応募”を実施。全国から3,000に及ぶ作品が集まり、この中から「SCHOOL OF LOCK!」番組スタッフ、幻冬舎スタッフによる選考で、最終ノミネート6作品を選出。ノミネート作品に選ばれた作者は、「SCHOOL OF LOCK!」のPC&携帯WEBサイト上にて、10週間にわたり、週一回の連載を行い、10月27日の第十話で作品を完結させました。連載中それぞれの作者には、幻冬舎のプロの編集者(相談役)が付き、さらに、作品ごとに「リスナー感想掲示板」を設置。全国のリスナー達からの応援や励ましのメッセージはもちろん、感想や意見などのリアクションを参考にしながら、物語を完成させました。この「蒼き賞」第1回グランプリ 15歳ベニ著「孤独星」がついに書籍化となります。本作品には、「蒼き賞」準グランプリ『陽のあたる場所』18歳・海央著と、審査員特別賞『×(かける)』18歳・柚木椅子著も併録。

作品の共通コンセプトは「世界が終わる夜に」。第1話以外、作品の結末は未完のままに、プロの作家でも、アタマを悩ませる“毎週連載”というスタイルに挑み、幾多の挫折を乗り越え、締め切り期間内に沸き上がった衝動を、文字で刻み続けた受賞者たち。ここに収められた3つの物語は、そんな“蒼き初期衝動”で書き綴られています。

☆グランプリ作品『孤独星』(ベニ著)あらすじ☆

主人公は、世界中の空から星が消え、その存在を語る者がいなくなった西暦30××年に生きる高校1年生の高藤尚人(たかとうなおと)。引っ込み思案で友達はおらず、携帯の登録は家族だけというさえない男子。そんな彼が唯一熱をもって探っているのが、いつも夢に見る月の周りで瞬く輝きの正体です。それがかつて「ホシ」と呼ばれていたものだと思ったある日、学校の屋上の給水塔から飛び降りようとしている学年一の美女・須波千登勢(すなみちとせ)を見つけて——。という1000年先のピュア・ラブストーリー。「ホシ」を取り戻すため力を合わせようとする二人のぎこちない態度やのろのろと結ばれていく友情の始まりに、読んだ人が心を寄り添わせずにはいられない魅力的な作品！

10代の少年少女が、自分たちの力で切り開いた未来を、作品の中で体感してみてください。